

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地															
日本工学院八王子専門学校		1987/3/27		千葉 茂		〒192-0983 東京都八王子市片倉町1404番地1他 (電話) 042-637-3111															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地															
学校法人片柳学園		1956/7/10		千葉 茂		〒144-8650 東京都大田区西蒲田5丁目23番22号 (電話) 03-3732-1111															
分野	認定課程名		認定学科名			専門士	高度専門士														
工業	情報科学専門課程		ITスペシャリスト科 システム専攻/モバイルアプリ専攻			-	平成22年文部科学省認定														
学科の目的	急速に変化し続けるIT業界の中で活躍できる高いスキルを身につけ、ビジネスで即戦力となる人材を育成。企業が求めるITスキル・ヒューマンスキル・ビジネススキルの3つの期待に応えるためインターンシップやPBL (Project Based Learning) などの体験型授業を通じ、マネジメント能力や業務遂行力を身につけ、3つのスキルをバランスよく兼ね備えた「自ら行動できる社会人」を育てる。																				
認定年月日	平成26年3月31日																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技													
4年	昼間	3,510		2,385		3,120															
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内数)	専任教員数		兼任教員数		総教員数												
200人の内数		270人の内数		3人の内数	5人の内数		31人の内数		36人の内数												
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 S: 90点以上 A: 80～90点 B: 70～79点 C: 60～69点 D: 59点以下不合格 P: 単位認定															
長期休み	■学年始: 4月1日～ ■夏季: 7月22日～8月31日 ■冬季: 12月25日～1月4日 ■学年末: 3月22日～3月31日				卒業・進級条件	【進級要件】 ①各学年の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること 【卒業要件】 ①卒業年次の授業日数の4分の3以上出席していること ②所定の授業科目に合格していること ③期日までに学費等の全額を納入していること															
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 欠席者に対しては、当日中に担任から電話・Eメール等で連絡することを基本とし、状況に応じて、数日続いた時点で保護者に連絡するなどの指導をしている。				課外活動	■課外活動の種類 IT関連の展示会、海外研修旅行、スポーツ実習、インターンシップ、卒業作品展示会、ボランティア活動、体育祭、学園祭 ■サークル活動: 有															
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和2年度卒業生) TISソリューションリンク(株)、(株)VSN、(株)ぐるなび、(株)ジェイテック、(株)ソーシステム、(株)ソニックス、(株)テクニカルエンジニアリングサポート、(株)ピーエスシー ■就職指導内容 業界セミナー実施・業界研究、SPI対策、履歴書指導、面接指導、身だしなみ指導、個別会社説明会、合同企業説明会、求人紹介、心理的ケアなど ■卒業者数 : 22 人 ■就職希望者数 : 20 人 ■就職者数 : 18 人 ■就職率 : 90 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 82 % ■その他 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報)				主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業者に関する令和3年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ITパスポート</td> <td>③</td> <td>13人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>基本情報技術者</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>9人</td> </tr> </tbody> </table> ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 ・ICTトラブルシューティングコンテスト2020 予選40チーム中16チームが本選進出				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	ITパスポート	③	13人	11人	基本情報技術者	③	22人	9人
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																		
ITパスポート	③	13人	11人																		
基本情報技術者	③	22人	9人																		

<p>中途退学の現状</p>	<p>■中途退学者 8名の内数 ■中退率 3% (休学者1名含まず) 令和2年4月1日時点において、在学者238名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者230名(令和3年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 就職 等</p> <p>■中退防止・中退者支援のための取組 担任と主任/科長による面談。懇談会・電話等による保護者との情報共有。 担任による指導のほか経済面では学費・奨学金相談窓口を設け、学生生活においてカウンセリングルーム等を設け個々の学生に適した指導・助言・相談等を行っている。 また、休学者にも復学(転科等)の指導・助言・相談も適時行っている。</p>
<p>経済的支援制度</p>	<p>■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・片柳学園入学金免除制度・若きつくりびと奨学金制度・再入学優遇制度・片柳学園奨学金制度・留学生特別給付制度 ・ミュージシャン特待生・スポーツ特待生</p> <p>■専門実践教育訓練給付: 非給付対象</p>
<p>第三者による学校評価</p>	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有 特定非営利活動法人 私立専門学校等評価研究機構、平成25年度(平成26年3月31日)受審 http://www.neec.ac.jp/education/accreditation/</p>
<p>当該学科のホームページ URL</p>	<p>https://www.neec.ac.jp/department/</p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
IT分野に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施。カリキュラム検討メンバーが、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラム(案)を策定し、分科会で検討を進めてカリキュラムに反映させる。またIT分野に関し、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、学科責任者、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
木田 徳彦	一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 人材委員会副委員長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	①
小塩 利文	株式会社帝京システム 代表取締役	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
小林 誠幸	株式会社第一情報システムズ 産業システム部第1事業部 部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	③
千葉 茂	日本工学院八王子専門学校 校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
山野 大星	日本工学院八王子専門学校 副校長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
倉重 明	日本工学院八王子専門学校 教育・学生支援部 部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
坪井 勇次	日本工学院八王子専門学校 キャリアサポートセンター センター長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	
田嶋 益充	日本工学院八王子専門学校 科長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(9～12月・1～3月)

(開催日時(実績))

第1回 2020年10月9日 10:00～12:00

第2回 2021年3月19日 10:00～12:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

2020年度、新型コロナの影響と緊急事態宣言により、遠隔授業の体制作りと前期の遠隔授業と対面授業を併用して実施した報告を行った。委員からは、新型コロナ禍における職場環境の変化に関する意見交換と、新型コロナ禍における教育環境に関する意見交換を行った。職場での新入社員研修においては、オンラインによる研修の実施は可能ではあるが、個人の理解度の様子が把握しにくいいため、そのケア方法としてオンデマンド教材を用意して自習できるよう対応したとのご意見を頂いた。このため、後期授業からは、遠隔授業をZoomで録画して、学生がいつでも振返って授業を視聴できるよう取り組みを改善した。また今後、遠隔授業を視野にクラウド環境の整備についてご意見を伺ったところ、IT業界での取引先のクラウド環境はAWS、Google Cloud、Azureなど多種多様で、優劣は難しいとの意見を伺った。しかし今後のクラウド環境の整備は必要不可欠で、現在Google Classroomを導入し活用している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

IT分野に関する実践的な実習や演習を行うため、教育内容に関するノウハウや最新技術の動向における助言、または技術指導などを受けられる企業を選定する。企業等との打合せにより、企業等のニーズに沿った実習内容や評価方法を設定し、目標を明確にする。企業等からの派遣講師による実践的な実習・演習を実施後、企業等の派遣講師による評価に基づき、教員が成績評価・単位認定を行う。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

システム開発グループ演習1、システム開発グループ演習2((株)シンクプラス)においては、昨年度から続くコロナ禍の影響で、全員が一斉に教室で受講できない状況の中(教室での授業と自宅からのオンライン接続併用のため)、グループワークをどう進めていけば良いか、そして授業の評価方法や到達目標などについて話し合った。またこれまでの学習状況や成績を考量した作業グループの調整や制作環境の決定などをおこなった。

システムアプリケーション開発1、システムアプリケーション開発2(ALJ Education Plus (株))においては、授業で使用するプログラム言語や開発環境、使用する教材について話し合いを行った。オンラインとの併用授業となるため、授業の到達目標の設定や学習内容の調整、評価方法の調整などを行った。

(3) 具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
システム開発グループ演習1	学んだ知識や技術を活用し、システム開発の流れ(プロジェクトの立ち上げからテストまで)をグループワークで体験し、プロジェクト管理や開発ツールの効果的な使用方法を学ぶ。	株式会社シンクプラス
システム開発グループ演習2	学んだ知識や技術を活用し、システム開発の流れ(プロジェクトの立ち上げからテストまで)をグループワークで体験し、プロジェクト管理や開発ツールの効果的な使用方法を学ぶ。	株式会社シンクプラス
システムアプリケーション開発1	これまで学んできたプログラミング技法やシステム設計技法、テスト技法を基に、総合的にアプリケーション開発を行う。	ALJ Education Plus 株式会社
システムアプリケーション開発2	システムアプリケーション開発1を基に引き続いて、より実践的なアプリケーション開発を行う。	ALJ Education Plus 株式会社

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定における目的に沿い、学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得する。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「Moodleを活用した授業形態を研究テーマにした研修会」

(講師 ITカレッジ教員 坂部和久)

期間:2020年4月20日(月)

対象:ITカレッジ教員

ITカレッジ教員 坂部和久

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言において、今後の教育現場のIT化推進のためオープンソースのLMSであるMoodleを活用した授業形態を研究するための研修会である。今後の遠隔授業に活用していくことを確認した。

②指導力の修得・向上のための研修等
 研修名「Google Workspace活用研修会&遠隔授業指導力の研修会」
 (講師 ITカレッジ 主任 太田 晶)
 期間:2021年3月8日(月)
 対象:ITカレッジ教員
 新型コロナ感染拡大防止により、年間を通じてLMSを活用し遠隔授業を実施してきた。遠隔授業の2年目を迎え、動画教材、授業録画など学生がオンデマンド形式で授業を振り返り学習できる環境を強化するためクラウド環境の検討を行った。その結果、Google Workspaceの機能であるClassroomの導入を決定した。導入にあたり、操作方法のほか、LMSの指導力向上と教育方法について意見交換を行い、教員講師の資質や教育ポテンシャルの向上とともに、指導力向上に結び付けることを確認した。

(3) 研修等の計画
 ①専攻分野における実務に関する研修等
 期間:2021年10月
 対象:ITカレッジ教員
 「システム開発におけるクラウド環境、授業形態のあり方セミナー」などの研究テーマを検討し実施する予定

②指導力の修得・向上のための研修等
 期間:2022年3月
 対象:ITカレッジ教員
 「在宅勤務における企業が求める人材と育成に向けた教育向上セミナー」などの研究テーマを検討し実施する予定

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。
 学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	(2) 運営方針(3) 事業計画(4) 運営組織(5) 人事・給与制度(6) 意思決定システム(7) 情報システム
(3) 教育活動	(8) 目標の設定(9) 教育方法・評価等(10) 成績評価・単位認定等(11) 資格・免許取得の指導体制(12) 教員・教員組織
(4) 学修成果	(13) 就職率(14) 資格・免許の取得率(15) 卒業生の社会的評価
(5) 学生支援	(16) 就職等進路(17) 中途退学への対応(18) 学生相談(19) 学生生活(20) 保護者との連携(21) 卒業生・社会人
(6) 教育環境	(22) 施設・設備等(23) 学外実習・インターンシップ等(24) 防災・安全管理
(7) 学生の受入れ募集	(25) 学生募集活動(26) 入学選考(27) 学納金
(8) 財務	(28) 財務基盤(29) 予算・収支計画(30) 監査(31) 財務情報の公開
(9) 法令等の遵守	(32) 関連法令、設置基準等の遵守(33) 個人情報保護(34) 学校評価(35) 教育情報の公開
(10) 社会貢献・地域貢献	(36) 社会貢献・地域貢献(37) ボランティア活動
(11) 国際交流	

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

ICT教育を全カレッジ全学科の必須の基盤教育として推進していく。これを実現していくために、東京工科大学と連携して教育内容のIT化を推進していく。教育方法のIT化の推進を実現するため、今年度においては、特にICTを活用した先進的で分かり易い教材・教育方法等の開発・実践を進める。

コロナ禍でのオンライン授業などに対応するため、利用し易いIT環境を順次整備を進めている。また、対面授業においても専門家からの意見を参考に、引き続き感染防止対策に万全を尽くしていく。

教員もコロナ禍における授業体制に対応するスキル向上のため、今年度も引き続き教員の就労環境の改善をはかりながら、自発的な能力開発及び向上を目的とした「学校法人片柳学園職員自己啓発支援制度」を積極的に活用できるように教員の研修体制を整えていく。地域連携・高専大連携、国際連携等を積極的に推進していく。

募集活動においては、オンライン面談(実施済み)・オンライン出願なども実施していく。また、経済的な問題を抱えている学生へは、高等教育の修学支援新制度を周知しながら修学継続できるような支援策を実施していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和3年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
森 健介	順天堂大学 非常勤講師 (元白梅学園高等学校副校長)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	学校関連
金子 英明	日本工学院八王子専門学校 校友会会長 (セントラルエンジニアリング株式会社 グループマネージャー)	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	卒業生/IT企業等委員
細谷 幸男	八王子商工会議所 専務理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	地域関連
山本 哲志	株式会社フジ・メディア・テクノロジー 管理センター 総務部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
才丸 大介	株式会社カオルデザイン 執行役員 企画戦略室 室長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	デザイン 企業等委員
鈴木 浩之	株式会社田中建設 取締役 建築部長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
池田 つぐみ	NPO法人日本ストレッチング協会 理事	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	スポーツ 企業等委員
石川 仁嗣	医療法人社団 健心会 みなみ野循環器病院 事務長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療 企業等委員
宮崎 豊彦	八王子市私立保育園協会 会長 城山保育園 園長	令和3年4月1日～ 令和4年3月31日(1年)	医療・保育 団体等委員

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ 令和3年7月31日

URL : <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。

また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は、法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価、令和2年度の項目別の自己評価表
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

(3) 情報提供方法

URL: <https://www.neec.ac.jp/announcement/28523/>

授業科目等の概要

(情報科学専門課程ITスペシャリスト科システム専攻/モバイルアプリ専攻)令和3年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		キャリアデザイン1	就職するに当たっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。また、エントリーシート、履歴書の書き方から面接対策を学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○		キャリアデザイン2	就職するに当たっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。また、エントリーシート、履歴書の書き方から面接対策を学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
3	○		簿記会計	基礎的な商業簿記の知識を学び、検定試験の合格を目指します。	1・後	30	2	○			○			○	
4	○		プレゼンテーション	パソコンを使い、多くの人の前で発表する技術を身につけます。	1・後	30	1			○	○				○
5		○	スポーツ実習1	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	1・後	30	1			○		○	○		
6	○		情報系資格対策講座1	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・前	30	2	○			○			○	
7	○		システム設計1	システム開発過程における要求定義から内部設計までに必要とされる要求分析技法、各種設計技法の基礎を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
8	○		情報系資格対策講座2	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	1・後	60	4	○			○			○	
9	○		Office実習	コンピュータの基本操作や、基本情報技術者試験の科目にもなった表計算ソフトなどのアプリケーション操作を学びます。	1・前	60	2			○	○				○
10	○		プログラミング実習1	「プログラミング基礎」をベースに、より実践的なプログラミング技術を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	
11	○		データベース基礎	リレーショナル型データベースの構造や管理機能などデータベースの基礎を学びます。	1・後	60	2			○	○				○
12		○	校外研修1	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	1・前	30	1			○		○	○		
13		○	校外研修2	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	1・後	30	1			○		○	○		
14	○		ITストラテジ	システム戦略や経営戦略など、ストラテジ分野について学びます。	1・前	30	2	○			○				○
15	○		ITマネジメント	プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントなど、マネジメント分野について学びます。	1・前	30	2	○			○				○
16	○		コンピュータ・テクノロジー1	コンピュータの基礎理論などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
17	○		コンピュータ・テクノロジー2	システム開発技術などテクノロジー分野について学びます。	1・前	60	4	○			○			○	
18	○		アルゴリズムとデータ構造	プログラムを作成する上で重要なアルゴリズムを情報処理試験対策も含めて学習します。	1・前	30	2	○			○			○	
19	○		IoTもの作り実習	ハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・前	30	1			○	○			○	
20	○		プログラミング基礎	プログラムの基本構造を学び、実際にプログラムを作成します。	1・前	60	2			○	○			○	
21	○		IoT実習1	ネットワーク経由でハードウェアを制御する簡易的なプログラムを作成します。	1・後	30	1			○	○			○	
22	○		Web開発基礎	ブラウザから利用するWebシステムの基礎となる技術を学びます。	1・後	60	2			○	○			○	
23	○		ネットワーク実習1	LANやWANなどを中心とした基礎的なネットワーク技術を学習します。	1・後	60	2			○	○			○	
24		○	資格対策講座1	各種検定資格の対策を行います。	1・前	30	2	○			○			○	
25		○	特別講座1	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	1・前	15	1	○			○			○	
26		○	基本情報対策講座1	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	1・後	45	3	○			○			○	

27		○	資格対策講座2	各種検定資格の対策を行います。	1・後	30	2	○			○		○		
28		○	特別講座2	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	1・後	15	1	○			○		○		
29	○		キャリアデザイン3	就職するに当たっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。また、エントリーシート、履歴書の書き方から面接対策を学びます。	2・前	30	2	○			○		○		
30	○		キャリアデザイン4	就職するに当たっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。また、エントリーシート、履歴書の書き方から面接対策を学びます。	2・後	30	2	○			○		○		
31	○		ビジネススキル1	仕事をする際に必要となる、電話の対応、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	2・後	30	2	○			○				○
32		○	スポーツ実習2	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	2・後	30	1				○		○	○	
33	○		外国語1	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	2・前	30	2	○			○				○
34	○		外国語2	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	2・後	30	2	○			○				○
35	○		情報系資格対策講座3	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・前	60	4	○			○		○		
36	○		情報系資格対策講座4	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	2・後	60	4	○			○		○		
37	○		データベース応用	リレーショナル型データベースの構築から操作までを実習を通じて学びます。	2・前	30	1				○	○		○	
38	○		Linux実習1	LinuxOSのインストールや環境設定を行い、Linuxコマンドなどを使った基本操作を学びます。	2・前	60	2				○	○			○
39	○		システム設計2	システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を実践的に学びます。	2・前	60	4	○			○		○		
40	○		情報セキュリティ	企業の業務システムやコンピュータシステムを安全に利用するために求められる情報セキュリティについて学習します。	2・前	30	2	○			○		○		
41	○		システム設計3	システムやアプリケーション開発過程における各種設計技法を実践的に学びます。	2・後	60	4	○			○		○		
42	○		クラウドコンピューティング	実際の業務でも使用されるクラウドサービスなど、最先端のITサービスを体験します。	2・後	30	2	○			○				○
43	○		IoT実習2	各種センサーを利用したプログラムの企画から開発、テストまでを行います。	2・前	30	1				○	○		○	
44	○		プログラミング実習2	様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・前	60	2				○	○		○	
45	○		Webアプリケーション開発	「Web開発基礎」で学習したことをベースにWebシステムの開発を行います。	2・前	60	2				○	○		○	
46	○		IoT実習3	各種センサーを利用したプログラムの企画から開発、テストまでを行います。	2・後	30	1				○	○		○	
47	○		プログラミング実習3	様々なシステムに対応したプログラミングを学習します。	2・後	90	3				○	○		○	
48	○		Webセキュリティ実習	Webシステムの脆弱性について学習し、その対策を考え実装します。	2・後	30	1				○	○		○	
49	○		Linux実習2	LinuxOSを使用してインターネットで利用される様々なサーバを構築します。	2・後	60	2				○	○			○
50		○	基本情報対策講座2	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	2・前	45	3	○			○		○		
51		○	資格対策講座3	各種検定資格の対策を行います。	2・前	30	2	○			○		○		
52		○	特別講座3	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・前	15	1	○			○		○		
53		○	基本情報対策講座3	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	2・後	45	3	○			○		○		
54		○	資格対策講座4	各種検定資格の対策を行います。	2・後	30	2	○			○		○		
55		○	特別講座4	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	2・後	15	1	○			○		○		
56		○	校外研修3	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	2・前	30	1				○		○	○	
57		○	校外研修4	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	2・後	30	1				○		○	○	
58	○		キャリアデザイン5	就職するに当たっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。また、エントリーシート、履歴書の書き方から面接対策を学びます。	3・前	60	4	○			○		○		

59	○		ビジネススキル2	仕事をする際に必要となる、電話の対応、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	3・前	30	2	○		○			○		
60	○		キャリアデザイン6	就職するに当たっての心構えや、自分に合った仕事の見つけ方、実際の就職活動に必要な事柄を学びます。また、エントリーシート、履歴書の書き方から面接対策を学びます。	3・後	60	4	○		○		○			
61	○		ビジネススキル3	仕事をする際に必要となる、電話の対応、ビジネスメール、手紙のマナーなど、社会人に役立つビジネスマナーを身につけます。	3・後	30	2	○		○			○		
62		○	スポーツ実習3	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	3・後	30	1			○		○	○		
63	○		外国語3	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	3・前	30	2	○		○				○	
64	○		外国語4	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	3・後	30	2	○		○				○	
65	○		経営戦略とマーケティング	市場調査における効果的な情報収集の手段や収集した情報の分析手法を身につけます。	3・前	30	2	○		○				○	
66	○		システムリサーチ	身の回りにおけるコンピュータシステムの仕組みを学び、これからの世の中で必要となるシステムについて検討します。	3・前	30	2	○		○				○	
67	○		情報系資格対策講座5	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	3・前	60	4	○		○			○		
68	○		プロジェクトマネジメント	プロジェクトマネージャーの業務ノウハウを学びます。	3・後	30	2	○		○				○	
69	○		情報系資格対策講座6	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	3・後	60	4	○		○			○		
70	○		システム開発グループ演習1	提示されたプロジェクト課題をもとに、プロジェクトの立ち上げから実行テストおよびプレゼンテーションまで、システム開発の一連のプロセスをグループワークで実体験します。	3・前	90	3			○	○			○	○
71	○		システム開発グループ演習2	提示されたプロジェクト課題をもとに、プロジェクトの立ち上げから実行テストおよびプレゼンテーションまで、システム開発の一連のプロセスを学生主導のグループワークで実体験します。	3・後	90	3			○	○			○	○
72	○		テスト技法	ソフトウェア開発やシステム運用管理におけるテスト技法について学びます。	3・前	30	2	○		○				○	
73	○		システム監査	情報システムを監査する立場として、リスクや問題点を分析する知識や技法を学びます。	3・後	30	2	○		○				○	
74	○		IoT実習4	1年次から学んだIoT技術を活かし、自由なテーマで開発を行います。	3・前	30	1			○	○			○	
75		○	基本情報対策講座4	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	3・前	45	3	○		○			○		
76		○	資格対策講座5	各種検定資格の対策を行います。	3・前	30	2	○		○			○		
77		○	特別講座5	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	3・前	15	1	○		○			○		
78		○	基本情報対策講座5	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	3・後	45	3	○		○			○		
79		○	資格対策講座6	各種検定資格の対策を行います。	3・後	30	2	○		○			○		
80		○	特別講座6	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	3・後	15	1	○		○			○		
81		○	システムアプリケーション開発1	(システム専攻)プログラミング技法をもとに、アプリケーションの作成等を学びます。	3・前	60	2			○	○			○	○
82		○	モバイルアプリケーション開発1	(モバイルアプリ専攻)プログラミング技法をもとに、モバイルアプリケーションの作成等を学びます。	3・前	60	2			○	○			○	○
83		○	校外研修5	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	3・前	30	1			○		○	○		
84		○	システムアプリケーション開発2	(システム専攻)プログラミング技法をもとに、アプリケーションの作成等を学びます。	3・後	90	3			○	○			○	○
85		○	モバイルアプリケーション開発2	(モバイルアプリ専攻)プログラミング技法をもとに、モバイルアプリケーションの作成等を学びます。	3・後	90	3			○	○			○	○
86		○	インターンシップ1	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	3・後	30	1			○		○	○		
87		○	インターンシップ2	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	3・後	150	5			○		○	○		
88		○	インターンシップ3	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	3・後	300	10			○		○	○		
89		○	校外研修6	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	3・後	30	1			○		○	○		

90	○		キャリアデザイン7	集団面接、グループディスカッションなどを行い大勢の中で意見を発言できるようにします。また、企業の仕組みや各種保険についても学びます。	4・前	60	4	○			○		○		
91	○		キャリアデザイン8	集団面接、グループディスカッションなどを行い大勢の中で意見を発言できるようにします。また、企業の仕組みや各種保険についても学びます。	4・後	60	4	○			○		○		
92	○		ファイナンシャルプランニング	将来のライフイベントに沿った資金計画や資産管理について考えます。	4・後	30	2	○			○				○
93		○	スポーツ実習4	さまざまなスポーツを体験し、人間力を高めます。	4・後	30	1			○		○	○		
94	○		外国語5	英会話やIT分野の技術英語などを学びます。	4・前	30	2	○			○				○
95	○		情報系資格対策講座7	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	4・前	60	4	○			○		○		
96	○		情報系資格対策講座8	情報処理技術者試験、ベンダー資格などの各種検定試験対策を行います。	4・後	60	4	○			○		○		
97	○		卒業制作1	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の制作や自由研究を行います。	4・前	270	9			○	○		○		
98	○		卒業制作2	在学中に学習したことを生かしてグループごとにテーマを決め、作品の制作や自由研究を行います。	4・後	270	9			○	○		○		
99	○		ITサービスマネジメント	企業におけるITサービス部門の責任者として必要な知識や技法を学びます。	4・前	30	2	○			○				○
100		○	基本情報対策講座6	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	4・前	45	3	○			○		○		
101		○	資格対策講座7	各種検定資格の対策を行います。	4・前	30	2	○			○		○		
102		○	特別講座7	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	4・前	15	1	○			○		○		
103		○	基本情報対策講座7	基本情報技術者試験の午前試験免除に向けた対策講座です。	4・後	45	3	○			○		○		
104		○	資格対策講座8	各種検定資格の対策を行います。	4・後	30	2	○			○		○		
105		○	特別講座8	業界をけん引する企業やリーダーを招いた先端講義を行います。	4・後	15	1	○			○		○		
106		○	校外研修7	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	4・前	30	1			○		○	○		
107		○	インターンシップ4	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	4・後	30	1			○		○	○		
108		○	インターンシップ5	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	4・後	150	5			○		○	○		
109		○	インターンシップ6	一定期間企業などの研修生として働き、自分の将来に関連のある職業体験を行います。	4・後	300	10			○		○	○		
110		○	校外研修8	AIやIoT、VRなど、ICTの先端技術を目の当たりにする展示会や講習会に参加して、最新の製品や情報に触れます。	4・後	30	1			○		○	○		
合計					110科目	5655時間(268単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業時に必修科目3360時間(169単位)および選択科目150時間(5単位)以上取得し、合計3510時間(174単位)以上取得すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週